（様式１）

令和８年度　学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立両国中学校
校長名	齊藤　伸治

１　本校の学力に関する状況

（１）墨田区学習状況調査結果から

成　　果	課　　題
・　全学年、全教科において、平均正答率が区や全国の平均と同等であるか、上回っている。 ・　観点別の正答率では、概ね全国平均を上回っている。	・　「基礎」よりも「活用」の正答率が低いことから、学習したことを活用する力を高めていく。 ・　２年生の理科において、「知識・技能」、及び「思考・判断・表現」が全国平均を下回っている。

（２）意識調査結果から

成　　果	課　　題
・　学習規律が保たれていると感じている生徒、及びいじめへの不安がない生徒が多く、安心して授業に臨むことができている。 ・　１、３年生において、学習意欲が高い生徒が多い。	・　全学年において、「先生のささえ」の数値が低く、教員の支援の在り方を見直す必要がある。 ・　「学級の絆」に課題が見られる学級が多く、集団としてのよさや、つながりを実感できるように活動を工夫する必要がある。

（３）墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成　　果	課　　題
・　学習に前向きな生徒が多く、授業でも互いに意見交流する姿が見られる。 ・　定期考査、小テストなどへの意欲が高く、努力できる生徒が多い。 ・　テストで間違えた問題はそのままにせず、解き直すことができている。 ・　授業や日常生活の中で、疑問に思ったことを調べようとする学習意欲がある。	・　学習に集中できない生徒や、学習内容の理解が不十分である生徒の基礎・基本を定着させる。 ・　課題について、自ら考え、深め、表現しようとする態度を育成する。

２　本年度の学力向上に関する主な取組

（１）活用力・表現力を育成する授業改善

○　各授業において、知識・技能を活用して、課題を解決する学習活動や、「なぜそう考えたのか」「根拠は何か」を説明する場面を意図的に設定し、思考の過程を言語化する力を育成する。

○　ＩＣＴ機器を活用しながら、生徒同士が考えを共有し、多様な視点に触れる協働的な学習を充実させる。

○　単元末には、学習内容を活用して課題解決や発表を行う活動を設定し、思考力・判断力・表現力の向上を図る。

（２）基礎・基本の定着と個別最適な支援の充実

○　各教科において、基礎的・基本的な知識及び技能の定着状況を小テストや振り返り等で継続的に把握し、指導改善に生かす。

○　習熟度や理解度に応じた課題を設定し、一人一人の学習状況に応じた指導の充実を図る。また、生徒が自分の理解度に応じて学び直しや発展学習に取り組める環境を整備する。

○　朝学習や補充学習等を活用し、学習内容の定着に課題がある生徒への支援を計画的に実施する。

（３）家庭学習習慣の確立と自己調整学習の推進

○　生徒自身が学習状況を振り返り、課題を把握できる機会を設け、自ら学習を調整する力を育成する。

○　生徒が目標や学習計画を立て、実践・振り返りを行う継続的な学習サイクルを確立し、主体的に学習に取り組む態度を育成する。

○　各教科において家庭学習と授業が関連する課題を設定し、学びの連続性を高める。

○　学習アプリやデジタル教材を活用し、生徒が自ら学習内容や方法を選択できる学習環境を整える。

（４）生徒の心理的安全性を高め、教員の支援が実感できる学習環境づくり

○　日常的な対話や面談を充実させ、生徒一人一人の学習状況や悩みを把握し、支援の充実を図る。

○　振り返りシートや学習記録等に対する教員からのフィードバックを充実させ、生徒の努力や成長を適切に評価する。

○　授業において、生徒の考えや意見を受け止める肯定的な指導を推進し、安心して学べる環境づくりに努める。

○　生徒の実態や学習状況について教職員間で積極的に情報共有し、組織的な支援体制を構築する。

○　学習や生活上の困難を抱える生徒への早期支援を行い、誰一人取り残さない教育活動を推進する。

○　担任や教科担当による定期的な助言や励ましを通して、生徒の自己効力感や学習意欲を高める。

（５）理科の重点的な改善

○　理科においては、学習状況調査の結果分析を基に、課題が見られる単元や領域について重点指導期間を設定する。また、定期的な到達度確認と補充指導を実施する。

○　理科の見方・考え方を働かせながら課題解決に取り組む学習活動を充実させ、学習内容を活用する力の向上を図る。

３　「令和９年度　墨田区学習状況調査」における目標

（１）目標

- 国語、社会、数学、理科、英語のＤＥ層を２０％以下にする。
- 国語、社会、数学、英語のＡＢ層を７０％以上にする。
- 理科のＡＢ層を５５％以上にする。
- 標準スコアの経年比較で、各教科１つ以上の観点で向上を目指す。